

「にじのきらめき」現地検討会

坂東地域農業改良普及センターでは、令和4年8月10日（水）、「にじのきらめき」現地検討会を開催し、生産者16名及び関係機関27名の合計43名が参加しました。

県西地域では、イネ縞葉枯病による収量の低下が懸念されており、収量を安定させるためには「にじのきらめき」等のイネ縞葉枯病抵抗性品種の作付面積を拡大する必要があります。

はじめに、県農業研究所から「にじのきらめき」の特性と、令和4年試験概要について説明が行われました。

次に、普及センターより、これまでの「にじのきらめき」の実証試験結果と、本年度実証試験を行っているくず大豆を活用した増肥効果について説明を行いました。実証ほを担当している株式会社クローバー・ファームの高橋氏から、既存の品種と比較して優れている点などのお話をいただき、今後への期待がうかがえました。生産者は次年度の一般栽培に向けて、「にじのきらめき」の栽培性や収量性、施肥設計などについて、理解を深めることができました。

その後、中日本農業研究センターから「にじのきらめき」の耐暑性について、県関係機関から「にじのきらめき」の県内普及状況および令和3年実証ほの試験結果について、全農いばらきから今後の米の需要見込みと「にじのきらめき」の取り扱い予定についての情報提供をいただきました。

普及センターでは、引き続き管内の水稲生産の高品質安定化に向けた取り組みを支援していきます。



令和4年8月18日 坂東地域農業改良普及センター 山本（成長産業）